

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	ジェイエイ兵庫 六甲福祉会	代表者	田中 智巳	法人・事業所 の特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別機能訓練の実施により、運動機能面の充実を図る。</li> <li>・看護職員の増員による医療ニーズに応える体制がある。</li> <li>・様々な食事形態に対応できることで、常にバランスよく食事ができる。</li> <li>・外歩きや地域の清掃など、ご利用者と一緒に取り組みめるカリキュラムがある。</li> <li>・前向きな職員が多く、イベント等でご利用者の可能性を引き出し、その気づきを活かしたケアに努めている。</li> </ul>
事業所名	オアシス宝塚小規模多機能型居宅介護事業所	管理者	溝本 佳		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	1人	3人	0人	1人	1人	0人	7人	0人	21人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	パート職員が多いので、地域での暮らしの支援など各設問にかかわりが薄いとの自己評価が目立っているため、地域でその利用者に関わっている事例を伝え共有して理解してもらう。	ご利用者の申し送り事項がなかなか職員に周知することができず、ご迷惑をおかけすることが多かった。改善した点としては、申し送りシートを活用することで、勤務日数が少ない職員にも周知することができるようになった。	・情報共有は重要なポイントで、更に内容精制度を高める努力をお願いします。 ・地域での暮らしの支援という部分の内容を盛り込まれた申し送りシートになっているのでしょうか？	情報共有するだけでなく周知することを徹底し、改善を図って参ります。また、ご利用者一人一人の状況、状態を把握し、変化に気づけるように致します。また、地域の情報や地域で実施するイベント内容は業務連絡ノートを活用し、職員全員が把握できるようにいたします。また、職員会議で情報提供し、事業所の役割を明確にする。
B. 事業所のしつらえ・環境	地域のイベント(手芸教室)で継続して参加者の付き添いで有償ボランティアを活用する。	新型コロナウイルスの蔓延に伴い、ご利用者、職員の健康管理表を用いて日々健康管理を行った。また、冬場であるが、換気が必要なため時間を決めて実施。また、事業所の清掃、消毒についてはトイレの等は都度行い、感染防止に動いた。ご利用者が使用する、テーブルにはコロナガードを設置し、飛散しないように工夫。できる限りご利用者にもマスクを着用してもらい、感染予防に取り組んで。事業所を訪問する客人にもアルコール消毒、検温を実施し、感染予防に取り組んだ。	・特徴的な取り組みが欲しい。 ・有償ボランティアの内容には触れられていませんが、地域でのイベントが中止になっているので、活用はされていないのでしょうか？ ・新型コロナウイルスの蔓延に伴い、消毒や検温等の通常の業務外で、ご負担が増えられている中、業務の改善にまで目をむけてられて感服いたしました。 ・どのようなチラシを作成しているのか包括にも配布してもらいたい。	看護師による個別機能訓練、褥瘡の処置等医療ニーズへの対応を実施。食事については手づくりをやめ、業者による食事提供を行う。栄養バランス良い食事を提供。また、食事形態のバリエーションを増やし嚥下困難者でも栄養が取れるよう取り組む。訪問鍼灸を外部から来所してもらうことにより、新たな事業所の売り確立し、マッサージ、可動域訓練を実施しリハビリ中心型小多機に変容し、内容に合ったご利用者に利用してもらうよう取り組む。
C. 事業所と地域のかかわり	冬場の乾燥した時期ではあるが感染症対策として1時間ごとの換気、手すり等のアルコール消毒、職員、利用者、来所者の手指消毒や手洗いの徹底を行う。	コロナウイルス感染予防を事業所としてどのように取り組んでいるのかをチラシにし、地域の200世帯に配布。また、事業所の取り組み内容をチラシにし、地域にPRした。	・地域の関わりとしてはパンチが弱い。 ・地域へのPRとしてチラシ配布という方法は有効であると思いました。普段から事業所のチラシ等は近隣に配布しているのでしょうか？ ・地域のイベントも中止が相次ぎ、利用者様の楽しみが減っていく中、施設内で必要な作業を利用者様と一緒にされるなど、工夫をされているように感じます。	コロナでもできる地域貢献活動として、子ども食堂を実施する。事業所をご利用されているご利用者と一緒にご飯を作り、お弁当にして渡す。近所の美座小学校に Outreach、定期的に子ども食堂を実施する旨伝え、地域、行政、ボランティアなど協力して頂けるような体制を整える。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	地域の防災訓練で近隣の施設と共同で一時的避難所と福祉避難所の違いについて理解できるような工夫を検討していく。	感染予防にて、地域のイベントも中止となり、関わる機会がなかったため、以前より定期的掃除を行っていた花壇を月1回ご利用者と一緒清掃した。	・分からない。 ・美座コミュニティの行事がほぼ中止になってしまっており、地域との交流機会がなくなってしまい、残念でした。	子ども食堂を通じて、ご利用者の可能性を発見。ご利用者自身の存在意義やご自分の役割など新たな部分が発見でき、子ども食堂を通じてご利用者と一緒にご飯を作り、お弁当にして渡す。近所の美座小学校に Outreach、定期的に子ども食堂を実施する旨伝え、地域、行政、ボランティアなど協力して頂けるような体制を整える。
E. 運営推進会議を活かした取組み	地域包括や民生委員などと連携し、地域の心配り等の情報を得る。地域のイベントや活動をリサーチして、利用者に興味を持ってもらった催しに参加する。	コロナウイルス感染予防について、事業所としての取り組み内容をチラシにし、地域の200世帯に配布。第三者評価について、今後内容の検討が必要。意見を活かした運営を実施します	・運営推進会議に定期的に参加できていないので、コメントづらい。 ・地域の活動、情報について随時ご相談させて頂ければと思います。 ・JAの強みを活かした農産物等のイベントなど地域住民へ向けた企画を期待したい。	運営推進会議では地域の情報や地域とどのように連携していくかを知り、できる限り行事に参加できるようにする。また、事業所独自の売りを活かした見学会やボランティアのイベントなど、コロナ対策を万全にして実施する。
F. 事業所の防災・災害対策	定期的に食料等の備蓄品の在庫確認を行う。段ボールベッドを組み立てて、使用感や設置スペース確保の確認を行う。	7/27 1階の事業所と合同で消防訓練を行う。水消火器を使った消火活動を実施。2回目は2月に実施予定。夜間を想定した訓練を実施致します。1/15防災訓練を行います。	・積極的な活動を評価します。 ・防災の取り組みをしっかりとされていると思います。	新型コロナウイルス感染予防、大規模災害の発生などに備え、防災訓練を実施するとともに、コロナウイルスによる濃厚接触者の対応訓練を実施します。ゾーニング、防護服など完全装備で実践しながら実施し、職員の認識を深める。